

キさんいんラリ

★
春号

山陰
人
モノ
味
いいね

あなたに会いたくて

雲南市

川柳り散歩

佐治町

フランス探訪記

世界を魅了する大根島の牡丹

山陰の匠を探す

鳥根の手仕事贈ります。

特集

鉄道で旅する

美しき山陰

第1特集

知っておきたい

沿線グルメ

四

2018 No.41

定価 864円

©VINO

フランス探訪記 大根島の牡丹を訪ねて

世界を魅了する 大根島の牡丹

19世紀末から20世紀初頭にかけて、ヨーロッパで陶磁器や漆器、調度品、浮世絵などの日本工芸美術が「ジャポニスム」と言われ流行したように、昨今もアニメや和食をはじめとする

多くの日本文化がヨーロッパで人気である。

今年は日仏友好160周年にあたり、

フランスで「ジャポニスム2018」が開催され

。日本文化の魅力がさらに注目されることだろう。

その中、鳥根県大根島の牡丹がバラに匹敵するような価値で、

今、フランス市場で評価を得て取引されている。

近年、フランスで独自に牡丹の販売ルートを開拓している

日本庭園「由志園」の軌跡を追ってみた。

文 矢田睦美 写真 余有泰、K W A N エイラン／多田桐子
協力 日本庭園 由志園 庭園設計／柳楽桜子





島根県の中津に浮かぶ大根島。島の産業として牡丹の生産が盛ん。年間70万本の牡丹を山卸している。

大根島の牡丹が フランスと日本の 架け橋に



島

根島の県花でもある「牡丹」。その牡丹の花を年間100万株も生産しているのが中津に浮かぶ小さな「大根島」である。大根島と牡丹の歴史は約300年前にさかのぼる。島内にある金隆寺の住職が静岡県で修行した際、薬用として持ち帰ったのがはじまりと語られている。昭和30年頃になると、接ぎ木による量産化技術が導入される。生産量が増えたことで、島の女性たちは島外へ行商を行い「大根島の牡丹」は全国各地に知れ渡るようになった。現在、5月の連休になると色とりどりの牡丹を鑑賞するために多くの観光客が訪れている。

近年、日本庭園「出志園」では、大根島産牡丹のブランド化を目的とし、世界へ発信。特に、フランスへの輸出量が増えているところである。

フランスの古城と牡丹庭園

フランスと言えば、バラを筆頭に園芸が盛んな国である。王家が寒冬時期のビタミン源を確保するため、



右ページ/ソルシュ城の現城主ドゥ・フィッコー氏の夫人ベネディクトさん（左）と、フローランタンコンセルティング代表の柳澤裕子さん。上/地元ジャーナリストに牡丹と芍薬の歴史を案内するベネディクト夫人。



上、パリから約200キロの郊外にあるソルシュ城。武大を数回の中には1700年代に建てられた宮殿と牡丹と市街の間、ベネディクトゥス人が育てている温帯の花の園がある。牡丹と市街が映り込んで、その城の庭園は一般公開され、一面に咲き誇る花々を鑑賞することができる。

右、市内からも牡丹、芍薬の園がよく見えます。左、温帯、ソルシュ城のあるサン・フィリップ・アン・ドゥ・ラ・マール、大規模な牡丹の歴史が説明されました。



オレンジやレモン、その他薬草を温室で育てた所から、発展したそうだ。そのフランスの片田舎に佇むソルシュ城では、春になると大規模の牡丹が咲き誇る。この城は1763年に建てられ、元城主はルイ16世の子どもたちの教育担当であった。現在も代々貴族の家系であるドゥ・フォアコー氏が所有している。夫人のベネディクトさんは大の牡丹好きで、城を囲む庭には中国など世界各国から収集した2222品種もの牡丹と芍薬を植栽。その内600品種が牡丹で、中でも希少価値の高い約130本の牡丹は由志園から届けられたものだ。このご縁は、パリ在住でローズアンバサダーとして有名な島根県出身の柳家桜子さんの貢献によるもの。ベネディクトさんは柳家さんに「大根島の牡丹は苗木が良く、大きな花がととてもきれいに咲きます」と笑顔で話っていた。



柳家桜子さん

「フローランタン・コンシルチング」代表、日仏国際間、地方自治体の経済文化振興のプロジェクトや自営企業の国際的発展のマネージメント、輸出・入国通商サポートを行う。またローズアンバサダーとして、フランス国立園芸協会、パリ市バガテル公園、モナコ公園にて、第一アングリアンとして公認審査官を務め、世界的に活躍中。